## 【授業科目】栄養学　Nutritional Science

| 担 当 教 員 | 開講年次 | 選択必修 | 単位数 | 時間数 | 授業形態 | 実務経験 | オフィスアワー | 教職員への授業公開 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 大橋 鉱二 | 2年次<br>後 期 | 必　修 | 1 | 15 | 講義 | | | 可 |

| | |
|---|---|
| 授業概要<br>（内容と進め方）<br>及び課題に対する<br>フィードバック方法 | 疾患を治療する上で、病態の経過を左右する要因として適切な栄養管理が重要である事が認識され、今や全国の多くの病院でNST（栄養サポートチーム）が立ちあげられ実際に稼働している。一方、臨床検査技師の育成カリキュラムに栄養学は必須では無いため積極的に参画しようとする臨床検査技師は多くない。この現状を踏まえ、足りない栄養学的な知識と視点を短時間で習得する講義を行う。この先、チーム医療の一員として活躍する上で栄養という視点から知識を整理する事は今後の臨床検査技師の職域拡大を図る上で重要になろう。<br>講義では1年時に学修した生化学的知識に関連付けることで代謝栄養学的な視点の習得を目指す。更に実際のNSTに発展的に活用できるよう臨床栄養学的な内容まで広げ、各種疾患に対する科学的な栄養ストラテジーにまで踏み込んだ講義内容としたい。<br>講義形式：配布するレジュメや資料を用いて行う。 |
| 授業の<br>位置づけ | 本学のディプロマ・ポリシー④「幅広い視野で臨床検査を考え、ヘルスケアシステムにおける臨床検査の専門性を理解し、保健・医療・福祉の専門職と連携し、地域社会に貢献できる」の達成に寄与している。 |
| 到達目標<br>（履修者が到達<br>すべき目標） | ①　6大栄養素の体内での役割が生化学知識に関連付けて説明できる。<br>②　病院内NSTで利用されている栄養評価の検査項目が臨床検査技師の視点から説明できる。<br>③　院内NST（栄養サポートチーム）の業務内容と臨床検査技師の役割が説明できる。<br>④　各種疾患における栄養学的ストラテジーを理解し説明できる。 |
| 時間外学習に必要な<br>学修内容および<br>学習上の助言 | 栄養学で学ぶ内容に関連する生化学的知識を予習として再確認しておく（120分）。講義後はレジュメなどを再読し疑問があれば、次回講義で質問の用意やネットワークや専門書で復習する（120分）。<br>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習１時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。 |
| 授業計画 | 第1回：栄養素1<br>ガイダンス、消化と吸収、栄養素としての炭水化物（糖質と食物繊維）<br>第2回：栄養素2<br>栄養素としての脂質（含 生理活性物物質）、タンパク質（良質な蛋白質とは）<br>第3回：エネルギー代謝<br>エネルギー代謝の計算、食品のエネルギー<br>第4回：栄養ケアマネジメント1<br>栄養スクリーニング、アセスメント<br>第5回：栄養ケアマネジメント2<br>ケアプラン作成、検査技師の実際のNSTへの参画（ビデオ学習）<br>第6回：栄養投与法<br>末梢静脈栄養法、中心静脈栄養法、経腸栄養法<br>第7回：疾患と栄養1<br>疾患と臓器特異性<br>第8回：疾患と栄養2<br>各種疾患と疾患特異的な栄養管理法<br><br>全て<br>大橋 |
| 評価方法<br>評価基準 | 成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。<br>授業中に行う小テスト10%、学期末試験90% |
| 教科書 | 講義では配布するレジュメや資料を利用する。　　参考書等　栄養学（医学書院） |
| 学生への<br>メッセージ | 医療機関においては「栄養」は長い間にわたり軽視されていたが、現代においては栄養状態の良否が疾患治療の結果の良否に大きく関わることが理解され、治療においてNSTによる介入が一般的になってきた。しかし医学境域における教育課程において特に医療の中心を担う医師教育も「栄養」は必ずしも必須科目でない。よって実際に稼働しているNSTも、各職種が自主的に学んだメンバーが連携し相互に補いながら対応している。医療における栄養学的観点の重要性は、疾患の治療だけではなく終末期の患者を扱うターミナルケアにおけるQOLにおいても同じであり、また我々健常人の健康寿命にも大きく関わっている。折角のチャンスですので医療のみならず一般的な健康に大きく関わる栄養学をこの機会に一緒に学びませんか。 |